

授業科目 吃音

【担当教員名】 長澤 泰子	対象学年	3	対象学科	言語
	開講時期	後期	必修・選択	必修
	単位数	2	時間数	30

【＜概要＞又は＜一般目標：G I O＞】

吃音は謎に満ちた障害といわれている。その理由として、長期に渉り研究されてきたにもかかわらず、明確な原因が判らず、従って明確な治療法も判らないと言う事実をあげることが出来るだろう。それでは、吃音のあるクライアントに出来ることは何もないのだろうか。今までに多くの研究者が多くのテーマについて多くの研究を重ねてきた。それらの研究を踏まえ、本科目においては、吃音のあるクライアントに対して、言語聴覚士がなさねばならぬこと、また出来ることを学ぶ。

【＜学習目標＞又は＜行動目標：S B O＞】

1. 吃音の本質について学ぶ。科学的に証明されていることと、俗説との違いを知ること
2. 吃音のセラピー法は様々あるので、それらの長所と短所を知ること
3. クライアントの年齢や重症度によって、対処法は異なるので、それらに精通すること
4. 吃音のある人の気持ちを理解できるようになること（吃音のある人たちのセルフヘルプグループとのかかわりの重要性）
5. セラピー理念を持ち、吃音セラピーを恐れないこと
6. 吃音の問題はことばだけの問題ではないことを理解すること

回数	授業計画又は学習の主題	SBO	
		番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	オリエンテーション（吃音とは）		
2～4	吃音研究の歴史および原因論（大脳半球優位説、診断原因説） 現在の原因研究（身体的・心理的・発達の・社会的）		
5	吃音のある成人の悩み（吃音のある人との出会いを計画する）		
6, 7	幼児期の吃音およびそのセラピー		
8, 9	学童期の吃音およびそのセラピー		
10	中・高生の吃音およびそのセラピー		
11	成人の吃音およびそのセラピー		
12	クラタリングなど関連する障害		
13	同上		
14	セラピストの資質はいかにあるべきか		

【使用図書】	＜書名＞	＜著者名＞	＜発行所＞	＜発行年・価格・その他＞
教科書 (必ず購入する書籍)	学童期の吃音指導	長澤泰子訳	大揚社	1998年 1800円
参考書	どもりにかんするQ&A、子どものどもりQ&A 絵本「どもってもいいんだよ」、「どもるってどんなこと」	言語障害児を育む親の会 ことばの臨床研究会		各300円 各1000円
その他の資料	必要に応じて、紹介またはプリント配布			

【評価方法】	【履修上の留意点】
①授業参加態度、②授業中の小テスト ③提出されたレポートの内容	講義を聴くと言うより、積極的に授業に参加し、自ら疑問を持ち、その解決手段を模索することが望まれる。課題として、実習的なこともある。また、授業には発表や討議もある。